

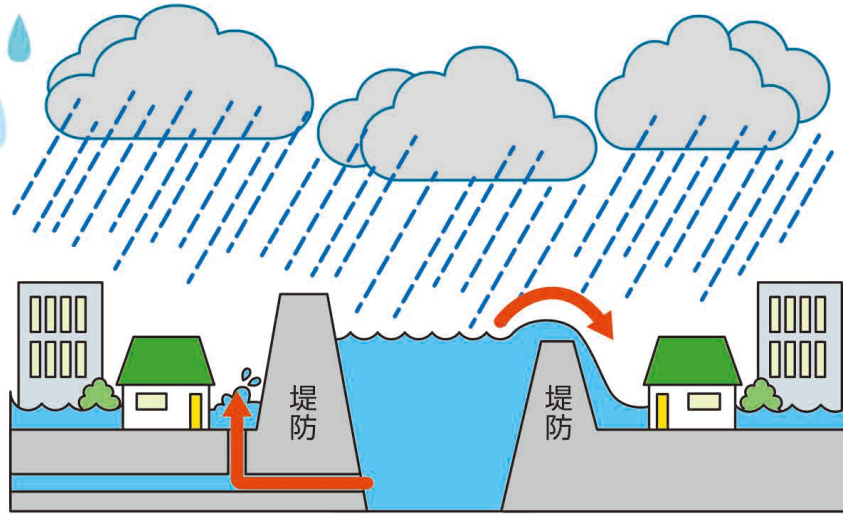
風水害対策

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことです。これらは、毎年のように全国各地に大きな被害をもたらしています。このような自然災害から身を守るためには、さまざまな自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。

氾濫の種類

内水氾濫とは

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨水を流しきれなくなることがあり、あふれ出した雨水により、建物や土地・道路等が水に浸かってしまうことです。雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。



外水氾濫とは

河川の堤防から水があふれたり、堤防が決壊して、家屋や田畑等が浸水することです。外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み、広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。

外水氾濫情報

外水氾濫については気象庁から注意情報や警戒情報が発表されているので、避難する際の参考にできます。

堤防	河川が氾濫しています。直ちに安全確保！	氾濫の発生 (氾濫発生情報)	思川 (保橋)	大芦川 (御幣岩橋)	武子川 (武子川橋)	黒川 (府中橋)	黒川 (東雲橋)
	河川敷	河川が氾濫するおそれがあります。増水した川には絶対に近寄らないでください。避難指示が発令されたらすみやかに避難しましょう。	氾濫危険水位 (氾濫危険情報) (レベル4)	4.10m	—	—	5.70m
このまま雨が降り続けると、河川が氾濫する危険があります。高齢者等避難が発令されたら避難に時間がかかる方は避難しましょう。		避難判断水位 (氾濫警戒情報) (レベル3)	3.30m	—	—	5.20m	4.50m
水防団が出動。河川の近くに住んでいる人は避難の準備をしましょう。ハザードマップで避難場所を確認し、防災情報に注意しましょう。		氾濫注意水位 (氾濫注意情報) (レベル2)	1.80m	2.00m	1.40m	3.70m	2.50m
水防団が水防活動の待機をします。河川の水位が上昇し始めているので、河川に近づかないようにしましょう。		水防団待機水位	1.50m	1.50m	0.80m	3.00m	1.50m
普段の水位							

避難のポイント 危険な場所



！ 浸水が始まる前

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となります。浸水してから自宅外への避難は危険です。危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。



！ 状況に応じた避難

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難しましょう。移動途中であっても、危険を感じたら近隣の建物へ行きましょう。



！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適しています。また、氾濫水にはごついているため、水面下が確認できません。長い棒などを杖代わりにし、側溝やマンホール、障害物に注意しましょう。



！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かず、やむを得ない場合は複数人で行動しましょう。避難の途中も増水した川の近くを通るのは避けましょう。



！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定されます。また、地上が冠水すると一気に水が流れこんでくる場合もあり、脱出が困難となります。



！ アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水します。場所を把握し、迂回路を想定しておきましょう。



！ 避難は徒歩で！

車での避難は、緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞を招き、浸水すると動けなくなるので、徒歩で避難しましょう。



雨の強さと降り方

強

やや強い雨 ザーザーと降る

地面からの跳ね返りで足元がぬれる



10mm以上～20mm未満

強い雨 どしゃ降り

傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい



20mm以上～30mm未満

激しい雨

バケツをひっくり返したように降る

道路が川のようになる。高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる



30mm以上～50mm未満

非常に激しい雨

滝のようにゴーゴーと降り続く

寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる



50mm以上～80mm未満

猛烈な雨

息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じる

傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険



80mm以上～

風の強さと吹き方

強

やや強い風

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。樹木全体や電線が揺れ始める



平均風速
10m/s以上～15m/s未満

強い風

風に向かって歩けない。転倒する人も出る。雨戸やシャッターが揺れる



平均風速
15m/s以上～20m/s未満

非常に強い風

何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある



平均風速
20m/s以上～30m/s未満

猛烈な風

屋外での行動はきわめて危険。走行中のトラックが横転する。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック塀で倒壊するものがある



平均風速
30m/s以上

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

■台風の大きさと強さ■

台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)を基に台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

■大きさの階級分け■

大きさ	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

■強さの階級分け■

強さ	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

■台風への備え■

家屋周辺

- 商店などでは看板のぐらつきに注意
- 庭の鉢植えに注意。室内に入れておく
- 家の周りを一周し、飛ばされそうなものはすべて室内に取り込むか固定するなどの飛散防止をする

屋根

- 瓦のひび、われ、ずれ、はがれはないか
- トタンはめくれやはがれがないか

雨どい

- 雨どいに落ち葉や砂などが詰まっていないか。断目はずれや塗料のはがれ、腐りはないか

テレビアンテナ

- 錆びたりゆるんだりしていないか。不安定なアンテナは固定する

ベランダ

- 鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高いものは室内へ

プロパンガス

- 固定されているか

窓ガラス

- ひびわれ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、窓に飛散防止フィルムを貼る。外側から板でふさぐなどの処置をする

ブロック塀・板壁

- ブロック塀にひびわれや破損箇所はないか
- 板壁にぐらつきや腐りはないか